

---

口頭発表

## [A] 防除（物理的・化学的・その他）

2024年3月29日(金) 13:30 ～ 17:00 A会場 (橘)

---

14:30 ～ 14:45

### [A-15] 奈良県におけるヤガ科抵抗性害虫 3 種の殺虫剤感受性

○井村 岳男<sup>1</sup> (1. 奈良県農業研究開発センター)

奈良県の野菜類、花き類の産地では、ヤガ科に属するオオタバコガ、シロイチモジヨトウ、ハスモンヨトウが最も重要なチョウ目害虫である。3 種はいずれも殺虫剤抵抗性害虫とされていることから、簡易な感受性検定法を考案して、2020年頃より継続して主要防除薬剤の常用濃度での殺虫効果を確認しているのでその結果を報告する。オオタバコガは、2020年から2023年まで主要防除薬剤11剤はいずれも効果が高かった。シロイチモジヨトウは、2019年から2023年まで主要防除薬剤7剤はいずれも効果が高かったが、ジアミド系2剤は効果が低い、あるいは年を追って低下する傾向が見られた。ハスモンヨトウは、2020年には主要防除薬剤10剤はいずれも効果が高かったが、このうちジアミド系2剤は2023年には殺虫効果の低下傾向が見られた。以上より、約4年の間に、オオタバコガは明らかな感受性低下が認められないが、シロイチモジヨトウとハスモンヨトウはジアミド系薬剤の感受性低下が進んでいると考えられた。3 種はいずれも長距離飛来性害虫であることから、このような感受性の種間差の原因としては、国内での防除状況だけでなく、飛来源での防除状況を反映している可能性があると考えられた。